

三人は、それを聞いて、「第一これまでだれにもできなかったことをして見せれば、世界中の人にもいばれます。わたしたちも一生けん命にお手伝いたします。」と、いさみ立って言いました。王子は三人にりっぱな着物を買って着せました。そして夜になると、みんなを連れて王さまのごてんへ行って、どうかわたくしに、王女さまの番をさせて下さいましと、申しこみました。王さまはこころよく王子と家来とを広間にお通しになりました。王子はその前に、三

人に向かって、どんなことがあっても、わたくしがだれだということには人にしゃべらないように、それから三人が、いざというときにスラスラのびたり、ブクブクふくれたり、火をふいたりすることも、かたくひみつにしておくように言いふくめておきました。王さまは王子に向かって、「もし、うっかりいねむりをして、王女を部屋からにがすと、おまえたち四人の命を取るがそれでもよいか。」と、念をおおしになりました。「それは承知しております。」と王子